

鹿児島の昆虫 60

新島の昆虫

昆虫担当 金井 賢一

桜島安永噴火で隆起した島

新島は、桜島の北東 1.5 km に位置し、面積 0.1 km²、最高点 45 m の小さな島です。1779 年 11 月から 1782 年 1 月までの安永の噴火活動で海底が隆起し、誕生しました。島の地層上部には貝の化石が産出し、海底だったことを物語っています。1950 年頃には最大 200 人以上が在住していましたが、2013 年には無人島になりました。つまり、島の成立後 230 年程度しか経過しておらず、かつ人の影響を受けてきた地として、生物の分布を考えるのに面白い地域です。

博物館では、フィールドワーカー養成講座の昆虫班として、2017 年 5 月、7 月、11 月の 3 回にわたり、新島にて昆虫相の調査を行いました。ここではその成果の一部を紹介します。



桜島浦之前港から見た新島

表 1. 新島のチョウ

	田中 (1967)	山下 (2017)	本報 (2018)
アオスジアゲハ	○		○
ナミアゲハ	○		
キアゲハ			○
クロアゲハ	○		
モンキアゲハ		○	○
キタキチョウ	○	○	○
モンシロチョウ		○	○
スジグロシロチョウ		○	
ムラサキシジミ	○		○
ウラナミシジミ	○	○	○
ベニシジミ			○
ツバメシジミ			○
ヤマトシジミ	○	○	○
ルリシジミ		○	
アサギマダラ			○
ゴマダラチョウ	○		
アカタテハ		○	○
イシガケチョウ		○	○
キタテハ		○	○
コムスジ			○
ヒメウラナミジャノメ	○		
ヒメジャノメ	○		
コジャノメ	○		
クロコノマチョウ			○
イチモンジセセリ		○	○
チャバネセセリ		○	○
全26種	11種	12種	18種

新島のチョウ相

今回の調査では、新島において 18 種のチョウを観察・採集できました。新島の記録は、1967 年 7 月に田中洋氏によって調査されたもの、2016 年から翌年にかけて 3 回山下秋厚氏によって調査されたものが過去にあります。それらの記録と合わせると、新島では現在までに 26 種のチョウが記録されています(表 1)。

しかし、この 26 種のうち新島にすみついているものはごく少数です。この島には現在ミカン科の植物が見られないために、ナミアゲハやモンキアゲハは生活できません。同様に幼虫の食餌植物が無い種として、キタテハやゴマダラチョウなども含まれません。また、キアゲハなどは生活範囲が非常に広く、海



キアゲハの幼虫

上を飛んで新島と錦江湾の海岸とを行き来していることでしょう。そのように考えると、新島に定着できるチョウはアオスジアゲハ、ヤマトシジミ、イシガケチョウぐらいで、他の種は一時的に島に来て発生するものの、定着できないと考えられます。

また、ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ、コジャノメなどは、明るい林縁部の草地にすみませんが、1974 年頃には果樹園や畑などがあつた場所が、現在メダケに覆われています。このような環境下では生息できずに、島から消滅したと思われる。

新島のセミ

2016 年から 2017 年の調査では、ニイニイゼミ、クマゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシの 4 種が確認されました。錦江湾沿いには他にヒメハルゼミ、ミンミンゼミが分布していますが、両種とも山地的な環境を好みます。標高 45 m の新島では生活しにくいのか、それとも島ができてから 230 年という時間では、まだ海を渡れないのか判断できませんが、面白い結果です。